

第 63 回 原子燃料分科会 議事録（案）

1. 日 時：2025 年 11 月 5 日（水）13 時 30 分～14 時 30 分
2. 場 所：一般社団法人 日本電気協会 4 階 D 会議室（Web 会議併用）
3. 出席者（敬称略，順不同）

出席委員：山本分科会長(名古屋大学)，黒崎副分科会長(京都大学)，鶴田幹事(東京電力 HD)，
本谷(東芝エネルギーシステムズ)，安田(日立 GE ヘルパル・ニュークリアエナジー)，石田(関西電力)，
浦野(中部電力)，中西(日本原子力発電)，中山(北海道電力)，松尾(九州電力)，
松藤(東北電力)，吉(電源開発)，鈴木(理)(原子燃料工業)，
中村(グローバル・ニュークリア・フュエル・シヤパン)，廣木(日本原燃)，
天谷(日本原子力研究開発機構)，北島(電力中央研究所)*，名内(電力中央研究所)，
永沼(日本原子力研究開発機構)，松井(エネルギー総合工学研究所)，
山下(日本原子力研究開発機構)，宇埜(福井大学)，北田(大阪大学)，
高木(東京都市大学)，寺井(東京大学 名誉教授)，鈴木(嘉)(原子力安全推進協会)
(計 26 名)

代理委員：今井(北陸電力，室谷委員代理)，柴田(日本原子力開発機構，三輪委員代理)
(計 2 名)

欠席委員：左藤，渡部(三菱重工業)，島本(四国電力)，谷口(中国電力)，亀山(東海大学)
(計 5 名)

常時参加者：福田(三菱重工業) (計 1 名)

説明者：原子燃料管理検討会 野中副主査(東京電力 HD) (計 1 名)

事務局：高柳，梅津，山崎(日本電気協会) (計 3 名)

※：議題(4)以降出席

4. 配付資料

- | | |
|---------|---|
| 資料 63-1 | 原子力規格委員会 原子燃料分科会・検討会 委員名簿 |
| 資料 63-2 | 第 62 回 原子燃料分科会議事録（案） |
| 資料 63-4 | 「取替炉心の安全性確認規程」「取替炉心の安全性の確認に用いる解析コードの適格性
評価規程」改定作業の進捗報告 |
| 参考資料-1 | JEAG4226(原子力発電所における炉心管理指針)制定案・JEAC4001(原子燃料管理規
程)改定案_NUSC 書面投票結果 |

5. 議 事

会議に先立ち事務局より，本会議にて，私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触する行為を行わないことを確認の後，山本分科会長の挨拶があり，その後議事が進められた。

(1) 資料の確認、代理出席者、定足数の確認、常時参加者、オブザーバ出席者の承認、説明者の紹介、検討会委員の承認

事務局より代理出席者 2 名の紹介があり、分科会規約第 7 条（委員の代理者）に基づき、分科会長の承認を得た。確認時点で出席委員数は代理出席を含め 27 名で、開催条件である分科会規約第 10 条（会議）第 1 項の委員総数の 3 分の 2 以上の出席を満たしていることを確認後、常時参加者 1 名及び説明者 1 名の紹介があり、その後配付資料の確認があった。

山本分科会長より、資料 63-1 に基づき、黒崎副分科会長の紹介があった。次に事務局より、分科会新委員 2 名の紹介があった。さらに検討会委員の交代の説明があり、分科会規約第 13 条（検討会）第 4 項に基づき、下記検討会委員候補を検討会委員として承認することについて、分科会規約第 12 条（決議）第 4 項に基づき、Webex の挙手機能により決議の結果、出席委員の 5 分の 4 以上の賛成が得られ可決された。

【原子燃料品質管理検討会】

・ 退任予定 高田 委員（日本原燃） ・ 委員候補 吉田 氏（同左）

(2) 前回議事録（案）の確認

事務局より、資料 63-2 に基づき、前回議事録（案）の紹介があり、本会議中に指摘のあった「圧力単位[gauge]の綴りを[gage]へ修正する」条件付きで、正式議事録として承認された。

(3) 「原子力発電所における炉心管理指針」/「原子燃料管理規程」の NUSC 書面投票結果（報告）

事務局より、参考資料-1 に基づき、「原子力発電所における炉心管理指針」制定案及び「原子燃料管理規程」改定案の NUSC 書面投票結果について報告があった。

(4) 「取替炉心の安全性確認規程」の定期見直し状況について（報告）

取替炉心安全性評価検討会 北田主査より、資料 63-4 に基づき、JEAC4211-2018「取替炉心の安全性確認規程」および JEAC4215-2022「取替炉心の安全性の確認に用いる解析コードの適格性評価規程」改定作業の進捗状況について説明があった。

主なご意見・コメントは下記のとおり。

- ・ 資料 3 ページ目において、「取安評価項目が詰め切れられず、進められない」との説明があったが、もう少し背景を話してもらえないか。
- 「10x10 燃料の導入」と「TRAC コードの導入」とがほぼ対になって動いており、「10X10 燃料の導入」にあたって型式認定が想定以上に時間がかかり、ようやく目途がついたところである。次のトピカルレポートの対応のため「TRAC コード」が動いていくことになるが、こちらについてもこれから山場を迎えることになり、なかなか進まない状況があり、スケジュールは 1 年程度遅れている。
- 【取替炉心設計】の前段、上流側の許認可で「TRAC コード」を使う、かつ「統計的安全評価手法」を使う、そういったところの審査、型式審査が終わったあとに、トピカルレポートを申請し規制庁に審査いただく、そこで上流側が固まるので、その固まった内容に従って下流側の【取替炉心設計】で何を扱うべきかが固まっていく。すなわち型式の審査に時間を要しており、下流側の【取替炉心

設計】が影響を受けているという状況である。

- ・ 現状、1年遅れで進めているが、前段の工程によってはもっと遅れる可能性もある。

(5) その他

- ・ 「JEAC4214 発電用原子燃料の製造に係る燃料体検査規程」については、今年度が定期見直しとの認識だが、状況を知りたい。
(→会議終了後状況調査し、予定通り「今年度見直しを行う」旨、別途事務局から回答した)
- ・ 次回の分科会は 2026 年 2 月 2 日（月）10 時を予定している。

以 上